

疱瘡之盛也。

〔扶桑略記二十五〕天曆二年戊申、有疱瘡患、

〔日本紀略六〕天延二年八月廿八日癸卯、於紫宸殿前庭建禮門朱雀門、大祓、依天曆元年八月十五

日例行之、是爲除疱瘡災也。九月八日癸丑、奉幣伊勢以下十六社、依拂、疱瘡災也。

〔帝王編年記十七〕天延二年、八九月有疱瘡患、

〔百練抄四〕天延二年、今年天下有疱瘡之患、

〔扶桑略記二十七〕天延二年、八九月間、有疱瘡疫、天下貴賤、天亡者多矣、

〔榮花物語二〕花とし二年天延はよの中にもがさといふものいできて、よもやまの人、上下やみの

のゑるに、おほやけわたくし、いといみじきこと、おもへり、やむごとなき男女うせ給ふ、たぐひ

おほかりときこゆる中にも、前せつしやうどの伊の前のせうまやう賢後せうまやう孝

おなじ日うちつゞきうせ給て、は、きたのかた、あはれにいみじうおほしなげくことを、よの中

のあはれなることのためしには、いひの、しりたり、

〔扶桑略記二十七〕正曆四年秋比、天下有疱瘡疫、

〔百練抄四〕正曆四年、今年疱瘡流行、

〔本朝世紀〕正曆四年七月十七日癸卯、中納言藤原顯光卿參入、著左仗座、藏人召仰云、雖有今年疱瘡

之事、准天延□□之例、可有相撲召合并音樂之由等、召仰左右近衛府、八月十一日丙寅、今日定考

也、此度停止宴座、依左大臣薨也、午後内大臣參議藤原安親卿、著左仗座、被定臨時仁王會事、又此日

被定、依先例、疱瘡、南殿并建禮朱雀門等前、以廿一日可被行大祓事、廿一日丙子、中納言源保光卿

參議藤原時光卿、參著左仗座、今日未一刻、依天變并疱瘡等事、於紫宸殿并建禮朱雀門三所、御祓之

事、